

## 第4回「エネルギー・原発問題」委員会

2020年10月15日(木) 15:00～17:00 ミーティングスペースAP日本橋

第4回「エネルギー・原発問題」委員会を開催し、今年度の調査報告ならびに今後の外部への発信内容について議論を行いました。同日の「国家財政の見える化」委員会に引き続き、Web会議システムを併用しての開催となりました。

高レベル放射性廃棄物の最終処分等が長年の懸案となっている「原発問題」については、広く国民全体での「ファクトベースの議論」が必要という観点から、その基礎となる「ファクト」集を作成し年内の発信を目指します。

また、エネルギー政策全体に関しては、国の「エネルギー基本計画」見直しの議論が始まっており、来夏には新計画が策定される見込みであることから、生団連としても2030年電源構成の見直しを含む提言を早期に発信してまいります。



▲高島屋  
鈴木会長(座長)

▲東京都地域婦人団体連盟  
谷茂岡会長(共同座長)

### 出席者からの発言を一部抜粋

#### ◆ 原発問題

- 放射性廃棄物の処分問題などは原発推進・反対に関わらず国民全体で考えなければならない問題。「ファクト」集作成により議論のきっかけづくりができればいい。

#### ◆ エネルギー提言

- コストや技術的課題との兼ね合いもあるだろうが、エネルギー自給率の向上のことを考えれば、高効率石炭火力も新設せず、再生可能エネルギーの最大限導入に注力することを検討すべきではないか。
- ドイツではエネルギーに関する議論を40年以上続けて、やっと現在の再エネ推進の姿になってきている。日本では「子や孫の代にどう世界を残すか」を行動基準としている政治家・企業は少なく、議論がまとまり辛い。国民が正面から議論できるように、生団連がしっかり発信していけば良いと思う。



## 今後の活動について

### (1) 原発「ファクト」および「使用済み核燃料 再処理・直接処分 処分シナリオ検討」

#### ファクト骨子

- ①国内原発の現状 ②放射性廃棄物 ③福島第一原発事故
- (②放射性廃棄物、特に高レベル放射性廃棄物の最終処分問題についてはさらに別建てで処分シナリオ冊子化)

➡「現状」や「事実」をまとめ、議論の土台として活用いただくという観点から、広く国民向けに発信する。

12月4日の理事会に事務局最終案を提示し、承認後発信予定。  
生団連HP掲載の他、会員消費者団体経由での冊子配布等を検討

### (2) エネルギー政策に関する提言

#### 提言骨子

- ①2030年電源構成計画の見直し 再エネ35～40%以上とすべき
- ②2050年についても具体的な数値目標を伴うシナリオ策定を
- ③再エネ導入のボトルネック解消へ国がより前面に立った改革を

➡提言案骨子については事務局案に沿って進めることに合意

(1)と同様、理事会へ事務局最終案提出、承認後の発信予定だが、資源エネルギー庁「基本政策分科会」におけるエネルギー基本計画見直しの議論の進捗を見ながら再度検討・修正。理事会開催前に発信することも視野に入れる。

